

# 「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」の 運用と成果

—オンラインコースにおける学習者支援—

千葉朋美・武田素子・廣利正代・笠井陽介

[キーワード] 『まるごと 日本のことばと文化』、日本語オンラインコース、自学自習、  
学習者支援、ライブレッスン

## [要 旨]

本稿では、国際交流基金が2016年7月より運用している日本語学習のためのプラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」において開講している「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」のコースデザインと運用の成果について報告する。本コースは、「まるごと日本語オンラインコースサイト」での自学自習に、①課題の添削、②ライブレッスン、③オーラルテスト、④グループ運用、⑤教師からのお知らせ・メッセージ、の教師による5つのサポートが付いたコースである。2016年度には延べ3コースを運用し、教師によるサポートを行うことで、「みなと」のコンセプト実現のため「学びが選べる」、「人とつながる」場が提供でき、さらに学習の継続率にも効果が見られた。一方で、「人とつながる」場として実施したライブレッスン、グループ運用には課題が残った。

## 1. はじめに

国際交流基金では、地理的、時間的な制約がある学習者に対して、インターネット環境や機器さえあれば誰でもユーザー登録ができ、自分に合った各種日本語オンラインコースが自由に受講できる日本語学習のためのプラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」(以下、「みなと」)を開発し、2016年7月より運用している(信岡ほか 2017)。「みなと」のメインコースとなっているのが日本のことばと文化を総合的に学ぶ「まるごと日本語オンラインコース」(以下、まるごとコース)である。まるごとコースは、国際交流基金が開発したコースブック『まるごと 日本のことばと文化 かつどう』、及び『同 りかい』(以下、『まるごと』)のカリキュラムとシラバス、素材を基に、ウェブサイト「まるごと+ (まるごとプラス)」<sup>(1)</sup>、「まるごとのことば」<sup>(2)</sup>のコンテンツを活用し、読む、聞く、話す、書くの4技能全てに関わる活動を含むインタラクティブなコースを目指して制作された「まるごと日本語オンラインコースサイト」(以下、まるごとコースサイト)で自学自習を行うオンラインコースである。ま

るごとコースは「みなと」上で開講されているため、「みなと」で受講登録をすると、まるごとコースサイトへアクセスできるようになり、学習が始められる。コースタイプは、「自習コース」と「教師サポート付きコース」の2種類がある(武田ほか 2017)。

本報告では、2016年度に開講した「まるごと A1-1 (かつどう・りかい) 教師サポート付きコース」(以下、A1-1コース)、及び「まるごと A1-2 (かつどう・りかい) 教師サポート付きコース」(以下、A1-2コース) のコースデザインと運用の成果について報告する。

## 2. 運用の方針

「みなと」は、ユーザーの好奇心や向上心を刺激し、人生における長い学びにつながる場となることを目指し、「また来たくなる e ラーニング」をコンセプトに開発された。そして、「また来たくなる」を実現するために、「学びが選べる」、「人とつながる」場の提供を目指して各種日本語オンラインコースの制作、運用を行っている(和栗・伊藤 2016)。まるごとコースは、e ラーニングを通じて総合的な日本語力を身につける学習の機会を提供することを目的にしているが、コース設計においては上記2点を意識した。

まず、「学びが選べる」を実現するために、まるごとコースでは、コースレベルや解説言語<sup>(3)</sup>に加えて、学習形態を選ぶことができるよう「自習コース」と「教師サポート付きコース」の2種類のコースタイプを設けている。表1に示すとおり、「自習コース」はいつでも受講が開始でき、最長6か月の受講期間の中で自分のペースで学ぶことができる完全自学自習のコースである。一方、「教師サポート付きコース」は「自習コース」に教師によるサポートが付いた定員制のコースで、「みなと」上で受講の申し込みを行い、抽選後、選ばれた受講者が決められたスケジュールに沿って学びを進めるものである。

次に、「人とつながる」の実現のために、「自習コース」、「教師サポート付きコース」ともに、受講者同士がやりとりできるコースグループ(掲示板)を設けている。ただし、「自習コース」では、教師は掲示板を立て、受講者同士が交流できる場を提供するのみで、やりとりには関与していない。一方、「教師サポート付きコース」では、教師は掲示板を立てるだけでなく、その後のやりとりにも関与している。また、「教師サポート付きコース」では、受講者や教師が一堂に会して交流しながら、学んだ日本語を実際に使ってみることができる場として、ライブレッスンを実施している。

このように、両コースはコース開講の目的は同じであっても、「学びが選べる」、「人とつながる」場を実現するための方法において異なる。自分のペースで学びたいか、教師に導かれながら学びたいか、またコースの仲間とどのようにつながりたいかなど、受講者が自らの学習スタイルにあわせて、自由にコースを選ぶことができるようにしている。

表1 「自習コース」と「教師サポート付きコース」の違い

	かつどう・りかい自習コース	教師サポート付きコース
受講登録	いつでも可能	受付期間の設定あり
定員	なし	約20名
受講期間	最長6ヶ月	約3ヶ月
学習形態	まるごとコースサイトでの自学自習	まるごとコースサイトでの自学自習 教師によるサポート (ライブレッスンなど)
グループ運用	あり (教師の関与なし)	あり (教師の関与あり)

また、「教師サポート付きコース」で「人とつながる」場を実現するためには、受講者の学習継続が不可欠である。そのため、より多くの受講者が学習を継続できるよう、学習継続のためのサポートもねらいとした。サポート内容の方針を決める上では、筆者らが各国語のオンライン教師サポート付きコース<sup>(4)</sup>を受講して得た経験や、日本語遠隔教育における学習継続への対策<sup>(5)</sup>を参考にした。そして、学習内容自体への興味に加えて、学習の進め方の分かりやすさや、学習進捗の把握のしやすさ、教師との関係などが学習に対するやる気を大きく左右し、学習内容だけではなく、教師が行うサポートの方法、その頻度や態度などが学習の継続に大きく影響を与えるということを実感した。それゆえ、本コースでは、日本語の指導だけでなく、日本語学習に対する動機付けを高めたり、学習のスケジュール管理を支援したりする情意面・学習管理面のサポートも重要視し、①課題の添削、②ライブレッスン、③オーラルテスト、④グループ運用、⑤教師からのお知らせ・メッセージの5つを教師サポートとして実施することとした。

### 3. コースデザイン

#### 3.1 コース運用の前提

本コースは、教師のサポートを受けながら学ぶコースであるが、定員は20名で、クラス担任制としており、ライブレッスンの実施時間によって1クラス5名の4クラスに分けている。解説言語は英語とし、配付資料やライブレッスンでの指示や説明の際に英語を使用している。そのため、英語が理解できることを受講条件の1つにしている。

コースにおけるメインの学習はまるごとコースサイトで行い、コースブック『まるごと』と同様に、「かつどう」の後に「りかい」という順で、1課ごとに学習が進んでいく。まるごとコースサイトには、LMSがついており、受講者はマイページで学習進捗を確認したり、ポートフォリオで学習の成果を閲覧したりすることができるようになっている (武田ほか 2017)。

また、コースを担当する教師は、「コース担当者ページ」を通して受講者の各課の学習進捗、課題の提出状況を把握できるようになっている。まるごとコースの運用においては、この「コース担当者ページ」とともに、「みなど」のメッセージ機能やグループ掲示板機能などを活用して、コースを運用している (図1)。



図1 「みなと」と「まるごとコースサイト」の全体図

### 3.2 コース目標

本コースでは、受講者が「まるごとコースサイトで自学自習し、ライブレッスンや課題添削などの教師のサポートを受け、クラスメートと交流しながら、コースブックに準拠した目標 Can-do ができるようになること」をコースの目標とした。

### 3.3 スケジュール

本コースの受講期間は約3か月である。コース開始直後に、「ガイダンスライブレッスン」として、教師やクラスメートとの顔合わせと、コースでの学習の進め方、また、「みなと」やまるごとコースサイトの利用方法の確認を行っている。コース開始時に送付する「コースの進め方」にもそれらの情報は記載しているが、資料の配付だけでは理解が不十分な受講者がいるため、本コースの受講方法を理解してもらうことをねらいとしている。また、ライブレッスンを円滑に行うための接続環境の確認という意味合いもある。

学習の進度は1週間に1課のペースとし<sup>6)</sup>、毎週日曜日の23時59分（日本時間）までに課題の提出を行うようスケジュールを設定している（図2）。ライブレッスンは、「かつどう」と「りかい」の2課分、つまり、1トピック分の学習を終えた後に行われるため、頻度としては2週間に1回である。グループ運用は、学習の進捗に合わせ、掲示板を作成している。まるごとコースサイトでの学習、及び全てのライブレッスンを終えた後でオーラルテストを行っている。

「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」の運用と成果

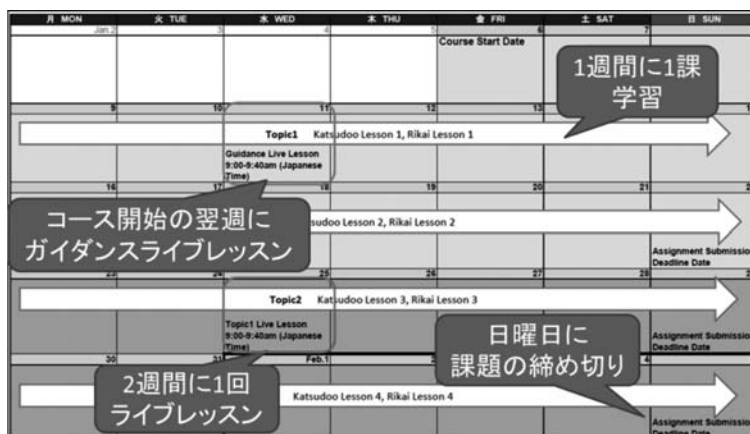


図2 A1-1コース受講者配付用スケジュール (一部抜粋)

### 3.4 修了要件

コースを修了するためには、100点満点中60点以上得ることを要件としている。点数配分はまるごとコースサイトでの学習を示す「学習の進捗」を50%とし、残りの50%の配分を、「課題の提出」10%、「終了テスト」10%、「ライブレッスン」20%、「オーラルテスト」10%とした。このように自学自習部分である「学習の進捗」の配分を高くしている理由としては、「教師サポート付きコース」であっても、受講者が継続的に自学自習を行うことを重視しているためである。

## 4. 各サポート内容の詳細

先述したとおり、本コースでは、受講者が課題の添削やライブレッスンなどの様々なサポートを受けつつ、目標 Can-do ができるようになることをコース目標としている。そのため、コースデザイン上の工夫として、課題、ライブレッスン、グループ運用などの各サポートにおいて、可能な限り異なる Can-do を扱い、コース全体として幅広く活動の場を作ることで、目標 Can-do の達成が感じられる機会を設けるようにした (例として、A1-1コースの目標 Can-do と各サポートとの対応一覧を資料 (1) に示す)。以下、各サポートの内容について詳細を述べる。

### 4.1 課題の添削

課題の添削は、まるごとコースサイト内で課ごとに設けられている「書く」活動に対して、その都度フィードバックを行うことで、学習内容に対する疑問などが積み重なって学習意欲が減退することを防ぐとともに、コメントを付して返却することで、受講者と教師のコミュニケーションの場とすることをねらいとしている。

本コースでは、対面授業のように教師と受講者が一緒に課題を見ながらフィードバックすることは想定していない。したがって、課題の添削(図3)は受講者を混乱させないように簡潔かつ明確に行う必要がある。そこで、以下のようなルールを設けている。

- ・作文中の誤用は、該当部分の色を変えて示し、ことばや文単位で添削する。取り消し線は正答がわかりにくくなるので使用しない。
- ・説明が必要なものはFB①のように印をつけ、下部にまとめて簡潔にコメントを記す。全ての添削についてコメントする必要はない。
- ・文法などの補足説明については、まるごとコースサイト内の説明を利用する程度にとどめ、A1レベルを超えた説明に踏みこまないようにする。
- ・日本語へのコメント、書いてある内容へのコメントの両方を入れる。

添削済みの課題はライブレッスンまでに返却し、受講者がレッスン前に課題に対するフィードバックを確認できるよう配慮している。これは、課題を確認することがライブレッスンで自分について話す際の下準備にもなるからである。

課題の添削は、教師から受講者個人にフィードバックを行う唯一の場であるが、受講者の中には、教師が返却した課題やコメント欄に書いた質問に対して、「みなと」のメッセージ機能で回答を送ってくる例も見られ、丁寧な添削を返すことが、さらなる動機付けにつながり、受講者と教師とのコミュニケーションを深める機会となっている。

## 4.2 ライブレッスン

ライブレッスンは、まるごとコースサイトで学んだことを実際に使ってみる場であるとともに、日本語を学ぶ仲間に出会い、交流できる場になることを目指し、グループレッスンを行っている。以下、使用システム、受講前の準備、レッスン内容に分けて報告する。

### 4.2.1 使用システム

「みなと」自体にはライブレッスンシステムは備わっていないため、コース運用において、ライブレッスンは任意のWeb会議システムを使って行うことになっている。筆者らは、本コースの対象者とライブレッスンの目的にあわせて、以下の項目を条件とし、ライブレッスンで使用するシステムの選定を行った。



図3 課題の添削例

① 音声 が 明瞭 に 聞こえる

ライブレッスンでは口頭でのやりとりをメインの活動として考えているため、音声に支障があると、想定している活動がスムーズに行えない。特に、A1レベルの受講者を対象に行うことを考えた際に、勇気を持って話した日本語が音声の不具合により聞き取りにくいなどの問題が生じた場合、話すモチベーションが減退する、もしくは不安感を招く恐れがある。そのため、インターネット環境のあまりよくない地域であっても音声 が 明瞭 に 聞こえることは非常に重要であると考えた。

② 参加者同士の顔が見える

遠隔教育におけるインターアクションの実現について研究した斎藤・早川 (2012) は、インターアクションを促進させるため、学習者が自宅から授業に参加している点を活用することで、関係性の構築がよりスムーズに行え、ことばの学びも広がると述べている。本コースでも、ライブレッスンは受講者同士の関係性を構築する場として機能させることは大切であり、そのためには Web カメラを通して、参加者同士の顔が見えるということが大切だと考えた。

③ 資料の共有、書き込みができる

ライブレッスンでは受講者が写真を見せながら、自分自身のことについてクラスメートに話す活動を取り入れる想定をしていたが、特に A1レベルでは、視覚的な助けを得ながら話したり、対象物を指差して質疑応答を行う場面は多く見られる。ホワイトボード機能や対面での指差しに代わる矢印機能が備わっているシステムを用いることで、活動の幅が広がると考えた。

上記のような検討を踏まえ、実際に関西国際センターの研修に参加した世界各地の元研修生に協力を得ていくつかの Web 会議システムで試行<sup>7)</sup>を行った。そして、①～③の条件を満たしており、かつ、受講者が事前に Web 会議システムに入室するためのアカウントを作成する必要がないなど参加するまでの操作が容易で、受講者に求める機器や OS、ブラウザ、インターネット環境などにおいて制限の少ない Zoom (<https://zoom.us/>) を使用してライブレッスンを実施することとした。

#### 4.2.2 受講前の準備

ライブレッスンが「学習したことを実際に使ってみる場」として機能するためには、受講者が当該トピックの学習をひととおり終えていることが前提となる。また、時には活動に利用する素材を受講者から提供してもらうことも必要になる。そのため、受講者には、レッスン受講前に以下の準備を済ませておくよう呼びかけている。

- ・当該トピックの自学自習を終える。
- ・当該トピックの課題を提出する。
- ・プレタスクシート (図4) に目を通し、ライブレッスンで扱う Can-do、話すテーマ、会話



や発表の例、関連することばなどを確認する。また、シートをダウンロードし、参照できる状態にしておく。

- ・写真を見せながら話す活動がある場合、メッセージで担当教師に写真画像を送付する。

プレタスクシートは、まるごとコースサイトで学習した内容のうちレッスンで何を扱うのかを明確にし、ライブレッスンに参加する受講者の不安を和らげることを目的に作成した。そのため、シートにはまるごとコースサイトのどの箇所に出てくるかの参照情報を付記し、シートの内容がよくわからない場合にどこに戻って復習すればよいかかわかるように配慮している。ライブレッスンでの「話す」活動は、A1レベルの学習者にとっては心理的負荷がかかる

ものであるが、プレタスクシートはその不安の軽減に役立っているようで、レッスン中にプレタスクシートを見てことばを確認している様子が見られ、受講者からも「プレタスクシートは役に立つ」という声が聞かれた。

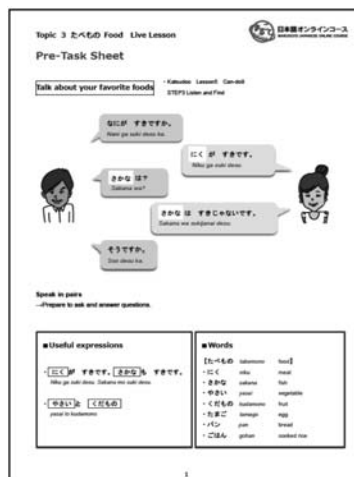


図4 プレタスクシート

#### 4.2.3 レッスン内容

ライブレッスンで扱う Can-do は、「みなと」が対象とする地理的制約がある学習者にとって、実際に日本に来る以外には使う場面がないと考えられる「場面会話」に関する Can-do (例：Can-do15 「ハンバーガーの みせで かんたんな ちゅうもんを します」)を極力避け、可能な限り「交流会話」に関する Can-do (例：Can-do9 「すきな たべものが なにか はなします」)を扱うようにした (ライブレッスンで扱っている Can-do は資料 (1) を参照)。各回のライブレッスンでは、2つ程度の Can-do をとりあげ、1つ目の Can-do は主にペア会話を行い、2つ目の Can-do では写真などの視覚資料を使って話す活動を行っている。レッスンのおおまかな流れは下記①～⑤の通りである。

##### ① ウォーミングアップ

入室してきた受講者との挨拶、ビデオやマイクの接続状況の確認、Zoom で使う矢印機能の練習などを行う。

##### ② 目標 Can-do の確認

導入としてその日のトピックの提示、各課で学んだ内容の振り返り、ライブレッスンで扱う Can-do の提示を行う。



### ③ Can-do ごとの活動

音声付きの会話例やイラスト・画像を用いて学習内容をまとめたパワーポイントを教師が提示しながら進めていく。ペア会話の活動では、ことばや表現が定着しているか確認しつつ、Can-do に即した会話をクラスメート同士で実際に話してみる。また、視覚資料を使って話す活動では、家族、朝ごはん、部屋など「私の○

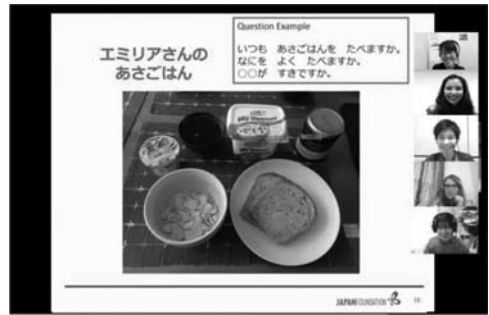


図5 ライブレッスンの様子

○』という個人的なテーマについて事前に写真を送ってもらい、レッスンではその写真を見ながらクラスメートと会話する (図5)。受講者個人の写真を使用するのは、互いの話の理解の助けになって質問がしやすくなったり、いろいろな文化への気づきにもつながったりするためである。また、何をどの程度話せばよいかの目安として、発表前には、プレタスクシートに記載しているものと同様の発表や Q&A の例を確認している。A1レベルでは既習事項を駆使して自由に質問することはまだ難しいので、Q&A はプレタスクシートを見て質問したいことを選ぶ形で行う。

### ④ Can-do チェック

レッスンの最後に全員で Can-do チェックを行い、受講者が自らの達成度を3段階 (星の数) で評価する。教師は適宜フォローやアドバイスをを行う。

### ⑤ 諸連絡

次回ライブレッスン日や課題提出締切日などのスケジュール確認を行った後、次回トピックについて予告し、写真を指定した期日までにメッセージで担当教師に送るように指示してレッスンを終える。

これまで多くの受講者は、まるごとコースサイトでの自学自習を行なった上でレッスンに参加しており、ライブレッスンは、プレタスクシートや教師の助けを借りながら学習したことを実際に使ってみる場として機能している。また、レッスン開始時は緊張からかお互いにぎこちなさが見られるものの、回を重ねるにつれ、徐々に受講者間に親密さが醸成され、クラスメートの発話に対して自分から質問したり、「私もです。」と共感するコメントを述べたりするなど、日本語でのコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。

## 4.3 オーラルテスト

まるごとコースサイト内にも終了テストはあるが、サイト上で口頭での運用能力を測る形式のテストを実施することは難しい。そのため、本コースでは、コースの目標が達成できたかど

うかを口頭能力ではかる場として、オーラルテストを行っている。

テスト形式はインタビュアー（担当教師）との1対1の対面インタビューである。テストは、ライブレッスンで扱った活動の中から2つ程度の言語活動を選んで行い、インタビュアーを含む2名の評価者が、各テストタスクの「Can-do 達成度」をループリックに基づいて評価する。評価尺度は3段階で、上から「★★★：目標 Can-do を達成」、「★★：目標 Can-do 達成まであと少し」、「★：目標 Can-do 達成まで努力が必要」である。オーラルテストの成績は、3段階で評価した各タスクの達成度を得点化して算出している。また、語彙、文法、発音、流暢さなどの言語能力についてもループリックの評価観点には含めているが、それらを得点化することとはせず、今後の学習のために、特筆すべき事柄をコメントの形でフィードバックしている。

評価が確定したのち、担当教師は各タスクの達成度および得点、言語能力についてのコメントを評価シートに記載し、オーラルテスト終了後、各受講者に送付している。

#### 4.4 グループ運用

グループはコースごとに設けられた掲示板で、学んだ日本語を使いながら、ライブレッスンのクラスの垣根を越えて同じコースを受講する仲間と出会い、交流できる場として設けている。本コースでは、世界各地の様々なバックグラウンドを持つ受講者が一緒に学んでいるので、掲示板で他の受講者の投稿を読んだりして、多様な文化に触れることもできる。

グループ内の運用に関しては、篠原・築島

(2015) の実践を参考に、教師が『まるごと』の各トピックに関連したテーマを投げかけることとした。グループ掲示板には画像も投稿できるので、自国料理や祭りなどのトピックでは、写真の投稿も推奨している。積極的な受講者は、A1レベルの学習事項の範囲を超えて、伝えたいことを伝えようとする姿勢も見られ、受講者が投稿したものに教師が積極的にコメントすることによって更なるやりとりが生まれている。

また、グループには、受講方法などに関する疑問について問い合わせる窓口としてのQ&A掲示板も設けている。受講者が受講方法に疑問を感じた時にどこから質問を行えばよいかを明確に示しておくことで受講方法に関する不安を軽減するとともに、問い合わせた受講者だけでなく他の受講者も問い合わせの内容と回答を閲覧できるようにしておくことで、教師に受講者から質問が大量に届き、その対応に追われることがないようにしている。



図6 グループ掲示板

#### 4.5 教師からのお知らせ・メッセージ

受講者の学習スケジュール管理を支援し、ドロップアウトを防ぐことを目的として、コース受講中には教師から様々なお知らせやメッセージを送っている。

「みなと」のお知らせ配信機能を利用すると、受講者の登録メールアドレスに新着通知が届けられるので、リマインドなど受講者に必ず読んでほしい重要な連絡の時に使用している。課題提出期限の翌日には未提出者にリマインドのお知らせを送っているが、リマインドを送ると課題が提出されることが多く、新着通知は効果があると考えられる。また、毎回ライブレッスン実施の数日前に送るお知らせでは、レッスン日時の勘違いによる欠席を防ぐため、日本時間と各受講者が「みなと」に登録しているタイムゾーンでの時間での日時を併記しており、お知らせに記載する内容も工夫している。

一方、レッスンを欠席した受講者に理由を尋ねたり、次回レッスンへの参加を促したりするなど学習のフォローを行う時には、「みなと」のメッセージ機能を使用している。メッセージは受講者から教師に送ることもできるので、レッスン欠席の連絡や写真の送付にも利用できる。また、学習を進める上で気になったことばや文法を個人的に質問してくる学習者もいる。

### 5. コースの運用結果

#### 5.1 実施結果

2016年度は A1-1コースを2回、A1-2コースを1回運用した。各コースの受講期間、受講人数、修了率は表2の通りである。本コースは、定員を20名としているが、各回世界中から定員の3～4倍を超える多数の応募があった。応募者のうち、「みなと」の目的である地理的、時間的制約のために日本語学習の機会がなかった人への機会提供となるよう、国際交流基金の海外拠点がない国・地域の居住者、A1-1コースは日本語未習者を優先的に受講者として選んだ。

表2 まるごと教師サポート付きコースの実施結果

レベル	受講期間	受講人数	修了人数	修了率
A1-1	2016年9月1日～11月30日	19名	7名	36.84%
	2017年1月6日～4月2日	27名	9名	33.33%
A1-2	2017年1月6日～3月19日	24名	11名	45.83%

本コースは、受講者が「まるごとコースサイトで自学自習し、ライブレッスンや課題添削などの教師のサポートを受け、クラスメートと交流しながら、コースブックに準拠した目標 Can-do ができるようになること」を目標としているが、まるごとコースサイトでの自学自習を最後まで終えた人は全員90点以上の成績でコースが修了でき、ライブレッスンやオーラルテストでは問題なく Can-do が達成できていた。コース終了時に任意で行っているコースアンケートでも、回答のあった22名（全員がコース修了者）については、「このコースを受講して、A1

レベルの総合的な日本語力を身につけることができたと思うか」という問いに対し、「よくできた」、または、「まあできた」と回答していた。

## 5.2 コースの成果

コース開講の目的である「学びが選べる」、「人とつながる」場の提供という視点から、コースアンケートでのコメントやオーラルテスト後の聞き取りをもとに本コースの成果を考察する。

まず「学びが選べる」については、本コースを運用することで、受講可能な人数は非常に限られてはいるが、「自習コース」だけでなく「教師サポート付きコース」という選択肢を設けることができた。「自習コース」とは異なるコースタイプを開講したことの効果としては、「以前自習コースを受講していたが、仕事が忙しかったこともあり途中でやめてしまった。教師サポート付きコースは学習進捗、ペースを管理してもらえるのがよい。」「先生の励ましのおかげで最後まで頑張れた。」といった教師に導かれながら学ぶことへの好意的なコメント、また、「先生の課題添削のおかげで理解が深まったので感謝している。」「ライブレッスンのお知らせは学習のリマインドとしてとても役に立った。」といった教師によるサポートへの好意的なコメントが寄せられている。

次に、「人とつながる」という点では、ライブレッスンについて、「日本人の先生と世界中のクラスメートと話せるのがよい。」「一緒に学ぶクラスメートがいるのがよかった。」「ライブレッスンは、みんなと話すためにまるごとコースサイトの学習を進めようという動機付けにもなった。」という声が聞かれ、「もっと会話したいので毎週あるとよい。」という声も多かった。グループについては、「世界中の学習者のいろいろなコメントが読めてよかった。」「グループはいろいろな文化について学べ、コースを補完するものであった。」という声があった。これらから、ライブレッスンやグループが「人とつながる」場として機能していたと考えられる。

また、学習継続という点では、2016年7月～2017年3月末に「自習コース」の受講を開始した人の修了率は、A1-1コースで約8%、A1-2コースで約11%であったが、表2で示した通り、「教師サポート付きコース」の修了率はA1-1コースの運用1回目で36.84%、運用2回目で33.33%、A1-2コースで45.83%で、いずれも「自習コース」の修了率を大きく上回る結果となった。本コースでは、学習継続もねらいとして教師によるサポートを行ったが、先述した受講者からのコメントにもあるように、ライブレッスンや課題の添削、教師からのお知らせなどが、学習継続のきっかけとして一定の効果があったのではないかと考えられる。コースアンケートでも、コースが修了できた22名からの回答ではあるが、表3の通り、全体的に本コースで実施している教師によるサポートが役に立ったとの評価を得た。ただし、グループについては任意参加の活動であり、主にグループへの書き込みをしなかった受講者から「あまり役に立たなかった」、「参加しなかった」という回答も見られた。

表3 教師によるサポートへの満足度

	とても役に立った	まあ役に立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	参加しなかった
ライブレッスン	21名	1名	0名	0名	—
課題の添削	21名	1名	0名	0名	—
グループ	7名	9名	4名	0名	2名

### 5.3 今後の課題

今後の課題は、本コースにおけるライブレッスンやグループが、より一層「人とつながる」場となるようにしていくことである。

まず、ライブレッスンについては、クラスやレッスンによって教師1名対受講者1名のマンツーマンレッスンになることもあり、そのクラスの受講者から「一緒に学ぶ仲間がほしかった。」「互いに教え合えるのでグループレッスンならよりよかった。」という声があった。ライブレッスンは、学んだことを実際に使う場として、まるごとコースサイトでの自学自習を前提にしているが、グループレッスンを成立させるためには、受講者の学習の継続が必要となる。2016年度実施したコースの学習継続者の割合を見ると、そもそもまるごとコースサイトでの学習を始めない、または、学習を始めてもライブレッスンに参加することなく学習をやめてしまうといったコース序盤での脱落者が多いという共通点が見られた (図7)。また、特に A1-1コースはコース終盤になるまで学習を継続できる人が徐々に減っていく傾向にあった。

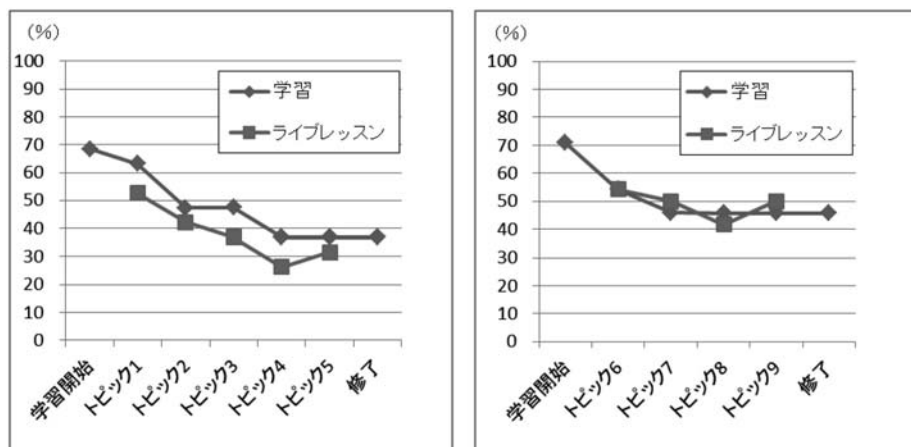


図7 学習継続者とライブレッスン参加者の割合 (左: A1-1コース 1回目、右: A1-2コース)

コースを脱落した理由について、担当者に連絡があったのは2人で、「仕事が忙しい」、「大学の授業と重なった」というものだったが、基本的にはお知らせやメッセージで連絡をとってもコース脱落者から返信はなく、はっきりとした理由はわからない。コースに当選したものの

学習を始めない人を減らす対策としては、これまで重視していた学習機会の提供という点に加え、より動機付けが高い人を選ぶという方法を試みたい。具体的には、これまでは希望するライブレッスンのクラスを選択するだけで気軽に受講申し込みができたが、今後は受講を希望する理由も書いてもらうように変更する予定である。また、学習を始めても途中でやめてしまう人を減らす対策としては、これまでは受講申し込み時に見るコース概要ページにおいて、1週間に1課学ぶ必要があるなどの詳細な学習スケジュールについては記載していなかったが、今後は記載し、学習に取り組む心の準備をしてから応募してもらうようにしたい。

また、グループについては、掲示板に積極的に書き込む受講者もいる一方で、任意参加の活動であるため、全体的に見ると書き込み自体が多くない状況もあった。しかしながら、ガイドンスライブレッスンでこの活動の目的を伝えたり、毎回のライブレッスンで新しく作成された掲示板の案内をしたりすることでグループに書き込む受講者が少しずつ増えるケースも見られた。教師サポート付きコースのグループは、教師も積極的に返信する形で運用しており、同じペースで学習を進めている受講者たちが学んだ日本語を使っていつでも交流できる場でもあるので、今後も引き続き同様の働きかけを行っていききたい。

## 6. おわりに

本報告では、2016年度に「みなと」において運用を開始した「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」をどのような方針のもとに準備し、運用を行ってきたのか報告を行った。2017年度は、関西国際センターでは「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」に加え、次のレベルとなる「まるごと (A2) 教師サポート付きコース」も開講する。また、「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」は海外拠点によって現地語を解説言語としたコースも開講される。関西国際センターで実施している本コースの運用ノウハウを共有しつつ、海外拠点が独自に加えた教師によるサポートの効果についても情報を得ながら、「みなと」がより一層「学びが選べる」、「人とつながる」場となるようコースを運用していききたい。

### 〔注〕

- <sup>①</sup> 『まるごと』で学ぶ人たちの自習をサポートすることを目的に作られたウェブサイト。会話、文法、漢字、語彙、生活と文化などのコンテンツがあり、自分のニーズに合わせて練習を選び、利用できる (川嶋ほか 2015)。
- <sup>②</sup> 『まるごと』の語彙や表現をまとめたウェブサイト。語彙や表現の意味や使い方を調べたり、整理したりできる (川嶋ほか 2015)。
- <sup>③</sup> 2017年8月現在、『まるごと』の入門 (A1) レベルに当たる A1-1・A1-2自習コースは解説言語英語、スペイン語、インドネシア語、タイ語で開講している。また、『まるごと』の初級1 (A2) レベルのトピック1~5に当たる A2-1自習コースは、解説言語英語でコースを開講している。なお、『まるごと』の初



## 「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」の運用と成果

級1 (A2) レベルのトピック6~9に当たる A2-2自習コースは2017年10月に、解説言語英語でコースを開講する。

- <sup>(4)</sup> 各国政府系機関が運営しているオンラインコースのうち、教師サポート付きのオンラインコースがある、「e-フランセ 総合フランス語 0CEL1 超入門1」(運営: アンスティチュ・フランセ日本)、「スペイン語オンラインコース AVE 担当教師付き自習コース (A1.1)」(運営: セルバンテス文化センター)、「Deutsch Online Individual A1」(運営: Goethe Institute)を受講した。
- <sup>(5)</sup> 遠隔日本語教育の実践例については、鈴木ほか (2012) が米国の4つの大学 (ジョージア工科大学、メサ・コミュニティカレッジ、シンシナティ大学、ハワイ大学カピオラニ校) におけるオンライン教育の問題点と解決方法について、藤岡・品川 (2012) が遠隔教育環境での問題点の指摘やカリキュラムデザインにおける解決方法について、斎藤・早川 (2012) がスウェーデンのダーラナ大学におけることばの学びを支援する遠隔日本語教育についての実践例を報告している。
- <sup>(6)</sup> 『まるごと』によると、授業時間の目安は「かつどう」1課あたり90-120分、「りかい」1課あたり120分であるため、1週間に4時間の自学自習を想定している。
- <sup>(7)</sup> システムは、Zoom の他、Adobe Connect、SABA class room、WebEx、Skype for business、Skype、Google hangout を用いて世界各地と接続しながら試行を行い、グループ会話時の音声会話、ビデオ会話に必要な帯域幅、接続の快適さや画面の見やすさ、システムの機能の使いやすさなどの観点から選定を行った。

### 〔参考文献〕

- 川嶋恵子・和栗夏海・宮崎玲子・田中哲哉・三浦多佳史・前田純子 (2015) 「日本語学習サイト「まるごと+ (まるごとプラス)」の開発—課題遂行と異文化理解を助けるウェブサイト—」『国際交流基金日本語教育紀要』第11号、37-52
- 斎藤里衣子・早川雅子 (2012) 「ことばの学びを支援する遠隔日本語教育とは何か—スウェーデン・ダーラナ大学の事例から—」『2014年日本語教育国際研究大会口頭発表予稿集』、152
- 篠原亜紀・築島史恵 (2015) 「オンライン日本語講座「NIHONGO Starter」—電子書籍型教材の開発と運用—」『国際交流基金日本語教育紀要』第11号、53-66
- 鈴木智美・落合恵美・藤岡典子・品川覚 (2012) 「日本語オンライン教育の問題点と解決法、四つの試み」『第5回 CASTEL/J 国際会議予稿集』
- 武田素子・熊野七絵・千葉朋美・笠井陽介・石井容子・前田純子・北口信幸 (2017) 「「まるごと (A1) 日本語オンラインコース」サイトの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』第13号、133-140
- 信岡麻理・和栗夏海・伊藤秀明・山下悠貴乃・川嶋恵子・三浦多佳史 (2017) 「「JF にほんご e ラーニング みなと」の構成と今後の展望」『国際交流基金日本語教育紀要』第13号、125-132
- 藤岡典子・品川覚 (2012) 「日本語遠隔教育コースの問題点と解決方法の探索」『第5回 CASTEL/J 国際会議予稿集』
- 和栗夏海・伊藤秀明 (2016) 「日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」の開発—「また来たくなる e ラーニング」を目指して—」『2016年日本語教育国際研究大会口頭発表予稿集』



[資料]

(1) A1-1コースの 目標 Can-do と各サポートとの対応一覧

トピック	課	目標 Can-do	ライブ レッスン	かつどう 課題	りかい 課題	グループ
1 にほんご	1	1 あいさつを します	○			
		2 にほんごを よみます				○
	2	3 きょうつの ことばを はなします	○			
		4 なまえと くになを かきます		○	○	
2 わたし	3	5 じぶんの ことを かんたんに はなしま す	○		○	○
		6 めいしを よみます				
	4	7 かぞくの ことを かんたんに はなします	○		○	
		8 かぞくの しゃしんを みて はなします	○			
3 たべもの	5	9 すきな たべものが なにか はなします	○			○
		10 ほかの ひとに のみものを すすすめ す				
		11 あさごはんの しゅうかんについて はな します	○		○	
	6	12 すきな りょうりを いいます			○	
		13 ひるごはんを どこで いっしょに たべ るか ともだちと はなします				
		14 メニューを よみます				○
15 ハンバーガーの みせで かんたんな ち ゅうもんを します						
4 いえ	7	16 どんな いえに すんで いるか いいま す	○		○	○
		17 いえに なにか あるか いいます	○			
		18 ともだちを いえに しょうたいする E メールを かきます		○		
	8	19 ものを へやの どこに おくか ききま す/いいます				
		20 いえを ほうもんします/いえに ともだ ちを むかえます				
		21 いえの なかを あんないします	○		○	
22 そとで なまえや じゅうしょを よみます				○		
5 せいかつ	9	23 なにかを する じかんと いいます	○			○
		24 いちにちの せいかつを はなします	○		○	
	10	25 いっしゅうかんの スケジュールについて はなします			○	
		26 パーティーを いつに するか はなしま す				
		27 パースデーカードを かきます		○		○